



百花繚乱

エネルギーに一言



窪田 久美子

一般社団法人
消費生活総合サポートセンター 理事

電気はどこで作られているのか

消費生活総合サポートセンター（Cサポ）は、消費者が直面する社会課題解決のために活動している。

活動の一つに「企業と連携した環境教育」があり、小学校、中学校、高校、大学に企業と連携してSDGs（持続可能な開発目標）やエシカル消費の講座を行っている。「エシカル消費」とは日本語で言うところの「倫理的消費」、つまり「人や社会、環境に配慮した消費行動」のことで、SDGs 一二番目の目標「つくる責任・つかう責任」と密接に関係している。二〇二二年度からは、毎月一回「エネルギー関連の勉強会&エシカル消費教材検討会（通称：EE（えい）べんとう会）」を始めた。この勉強会を立ち上げたのは、今から

一八年前の強烈な体験があるからである。

それは、NPO法人「あすかエネルギーフォーラム」の会員として参加した柏崎刈羽原子力発電所の近隣に住む柏崎市と刈羽村の住民とのエネルギートークサロンでのことだ。当時、消費生活アドバイザーの資格を取得したばかりの私は、エネルギーに関する知識もないのに、誘われるままにこのトークサロンに参加した。その時に行われた「エネルギーについて普段思うことを率直に語り合いましょう」というグループワークで、私と同世代で子育て中の刈羽村の女性が「私はテレビで東京ディズニーランドが煌々と光っている映像が映るのを見るたび腹立たし

いと思っている。東京の人は電気がどこで作られているのか考えたことがあるのか」とおっしゃったのだ。大変ショックな出来事だった。恥ずかしながら、彼女の指摘通り、エネルギーを大量消費する首都圏に住んでいながら「電気がどこからきているのか」などと考えたことは一度もなかったのだ。消費生活アドバイザーの資格を持った以上「エネルギーのことをよく知らず、イメージだけで思ったことを口に出して情報を発信してはいけない」と、強く思った瞬間である。

この体験を経て、私はあすかエネルギーフォーラムの勉強会に積極的に参加してきた。あすかエネルギーフォーラムでは、電源関連施設の見学と専門家による勉強会、立地に住む方たちとのトークサロンを大切にしている。おかげさまで、この一八年間、火力発電、水力発電、風力発電、太陽光発電、原子力発電、核燃料サイクル施設等の施設見学と専門家からの講義を受けることができた。理系音痴の私ではあるが、「百聞は一見に如かず」「継続は力なり」である。この勉強会に参加し続けたことで、自分なりにエネルギーに関する知識を少しずつ積み上げてこれたのではないかと思う。

今までは自分が関心を持ち理解することを中心に活動してきた。学校でSDGsが全面的に取り上げられるようになり、「SDGsを（講師として）語るなら、エネルギーのことを知ることが大切！地球を大切にしたい」という思いを会員同士で共有したい！という思いから、前述の「EEべんとう会」を立ち上げた。家電製品が普及し、さらにコロナ禍で、ステイホームやテレワークでインターネットに依存した生活をしている私たちが、電気のない生活など考えられるのだろうか。一八年前に私の心を突き刺した「東京の人は電気がどこで作られているのか考えたことがあるのか」というあの言葉が、いまだに私の頭の中でぐるぐる回っているのである。

私自身はエネルギーに詳しくはないが、「周りと共有したい」という熱意はある。仲間もいる。あすかエネルギーフォーラムで学習してきた経験を活かし、「日本のエネルギー事情を知るために過去の歴史を学ぶこと」「電気がどこでどのように作られ、どのように消費されるのかを正しく知ること」「実際に自分の目で見て確かめること」の三つに重点を置き、今後の活動を広げていきたいと思っている。